

# 岩手県 野田村

vol.1  
 ~復興まちづくりシャレットワークショップ~  
 7月28日~7月29日

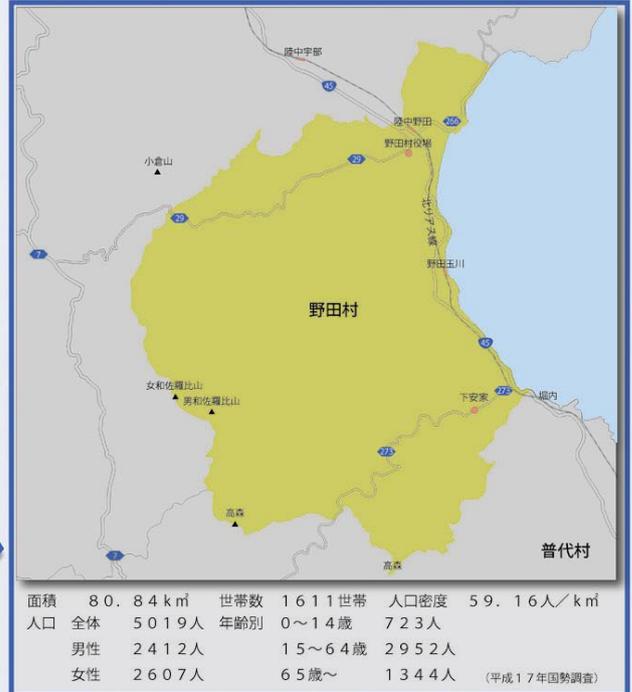
## 経緯

3.11に発生した東日本大震災において、東北地方は津波被害は甚大であった。リアス式海岸の北端に位置する岩手県野田村においても同様、津波被害は甚大であり中心市街地は津波によって流出し、被害者数も30名を超えるなどの被害をうけた。その後、野田村の震災からの復興へ向けた様々な活動が行われる中、チーム北リアスや地域住民の方々の助けを得て、今後の野田村の復興まちづくりを考える学生主体のシャレットワークショップが行われることとなった。

## 目的

野田村の復興まちづくりに関するアイデア、提案づくりを目的とし、中心市街地と下安家の10年後の野田村復興シナリオを考え、まちの骨格やゾーニング、津波被害特性と復興資源の整理を行い、リーディング・プロジェクトの頭出しを行う。

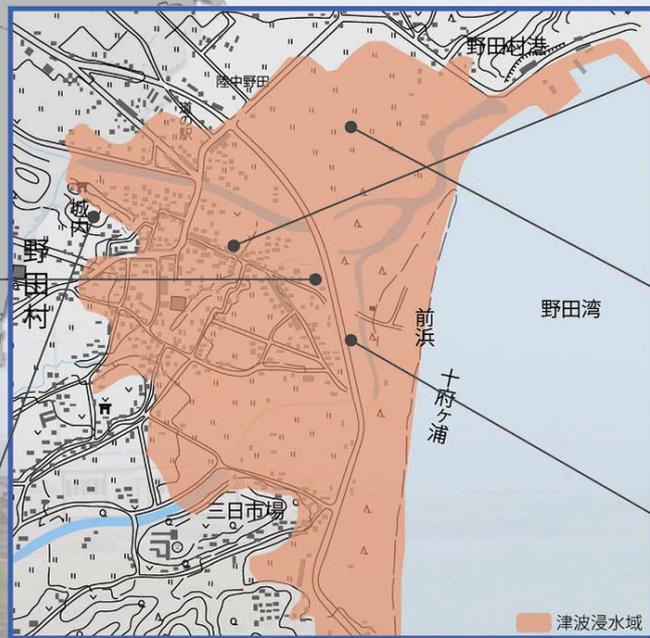
## 概要



## 被害状況

人的被害	死者	38名
	負傷者	17名
建物被害	罹災総数	502戸
	全壊	308戸
	大規模半壊	135戸
	半壊	33戸
	一部破損	26戸

## 中心市街地 MAP



## 参加メンバー

- |                   |                |              |               |               |              |               |               |
|-------------------|----------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|
| 講師・専門家：北原啓司（弘前大学） | 参加者：三土真司（弘前大学） | 谷本佳樹（弘前大学）   | 大島知之（首都大学東京）  | 田中健士（首都大学東京）  | 岡 智史（首都大学東京） | 長谷川佳司（首都大学東京） | 若田 暁（工学院大学）   |
| 河村信治（八戸高専）        | 高橋 司（工学院大学）    | 山下純哉（工学院大学）  | 酒井勇入（工学院大学）   | 池田洋輔（工学院大学）   | 仁藤秀俊（工学院大学）  | 真鍋嘉志（京都大学）    | 川島朝人（八戸高専）    |
| 浜美公秀（大阪大学）        | 下和洋輔（八戸高専）     | 小倉優大（八戸高専）   | 李澤雪江（弘前大学）    | 小山内由希（弘前大学）   | 田村亜希子（弘前大学）  | 村上早紀子（弘前大学）   | 水上小紀子（首都大学東京） |
| 野澤 康（工学院大学）       | 前田晴香（首都大学東京）   | 田中里奈（首都大学東京） | 平野悦子（工学院大学）   | 川畑朱里（京都大学）    | 猪股希美（八戸高専）   | 鬼田夢葉（八戸高専）    | 赤坂志保（八戸高専）    |
| 永田康彦（京都大学）        | 木村 萌（八戸高専）     | 中村美美（八戸高専）   | 小川美由紀（首都大学OG） | 佐藤百合子（首都大学OG） | 吉田 涼（函館高専）   | 山口俊太郎（函館高専）   | 成田有佑（函館高専）    |
| 市古太郎（首都大学東京）      | 内田悠晶（函館高専）     | 川島優太（函館高専）   | 西 泰志（函館高専）    | 松原翔平（函館高専）    | 神久保知希（八戸高専）  | 藤ヶ森美羽（八戸高専）   | 山本結麻（八戸高専）    |
| 玉川英剛（首都大学東京）      | 橋本教弘（函館高専）     | 川井貴宏（函館高専）   | 柴田 裕（函館高専）    | 庭田茂亮（八戸高専）    |              |               |               |
| 河原 晋（首都大学東京）      |                |              |               |               |              |               |               |
| 柳瀬有志（アルテック）       | 鳴海雅哉（函館高専教員）   | 中村和之（函館高専教員） | 高橋直樹（函館高専教員）  |               |              |               |               |

# 岩手県 野田村

vol.2  
 ~復興まちづくりシャレットワークショップ~  
 7月28日~7月29日

## ■スケジュール／作業風景



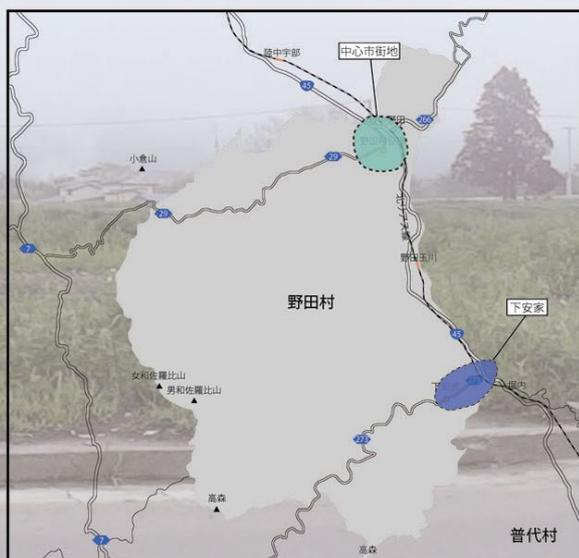
10:00 12:30 21:00 10:00 16:00



## ■提案

今回の復興まちづくりシャレットワークショップにおいては、全体を5グループ(下安家<1グループ>中心市街地<4グループ>)に分かれて上記のスケジュールに沿って、それぞれのエリアで復興後のまちづくりのアイデアの提案を行った。

- 下安家・・・昔から野田村の漁業と観光の拠点として存在しており、自然豊かな土地でした。漁業ではサケやホタテの養殖をしていた。また、観光においても三陸鉄道通過する鉄橋からの眺めは絶景とされている。
- 中心市街地・・・野田村役所を中心に広がる中心市街地。野田村を昔から見守ってきた愛宕神社の鳥居の前には、野田村の人の生活の中心となる商店街が並ぶメインストリートがあった。しかし、今回の津波による被害を最も大きく受けた場所とも言える。



下安家

**コンセプト**  
 地域の価値の創造 産業の復興・観光・観光 観光は豊饶、自然を活かす  
 支えるのは下安家の人たち

メンバー  
 土屋 聖(富山大学), 小山 博典(愛媛大学), 長瀬 匠司(徳島大学), 田村 泰典(京大), 牛野 隆(富山大学)

**水と生きる安家(akka)**  
 一海・川と共に生きてきた下安家一

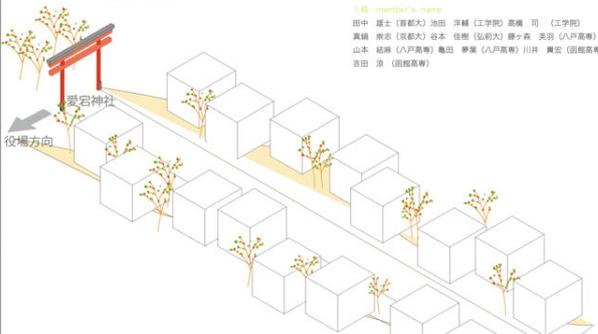
**水と生きる安家(akka)**  
 一海・川と共に生きてきた下安家一

提案

# 岩手県 野田村

vol.3  
～復興まちづくりシャレットワークショップ～  
7月28日～7月29日

## つなぐストリート -市をつながる商店街の再建-



- 参加者
- 田中 雄士 (首都大) 池田 洋輔 (工学院 高橋 司 (工学専)
  - 真鍋 謙史 (京大) 吉本 佳佳 (京大) 藤ヶ谷 美羽 (八戸高)
  - 山本 結露 (八戸高) 亀田 夢葉 (八戸高) 川井 貴史 (岩手高専)
  - 吉田 涼 (岩手高専)

7月28日からスタートした野田村シャレットワークショップ(以下WS)の作業は各道とも被災状況の視察からスタートした。1期に同行して下さった地元の方々との対話を重ね、"地元の人々に受け入れられる街"を1期のスタンスとして考えをすめようとした。

視察から戻りチーム内で現地に對する単純な感想を記していた。(下図)全員が共通に興味を抱いたのは「愛宕神社鳥居から伸びる歩道とそこを繋ぐ商店街のあり方」という点であった。よってチームの空間的なアイデアやアクティビティの提案もその場所に集中しデザインを進めた。



参考→商店街のメインストリートと野田村にとって受け入れやすい復興を考えると、我々が決定したコンセプトは「市をつなぐ商店街の再建」でした。  
市と決定した理由としては、  
1. 貴牛さん「野田村の観光資源は「祭」や「市」祭りに人が集まってアイデンティティや一年の楽しみを満喫する。そしてこれらの祭りは村内外にも広く知られた村の観光資源ではないか」という意見。  
2. 現地のリサーチから野田村観光協会の主催する「6日市、26日市」「16日市(朝市)」は村民にかつてより愛された場だったということが判明した。

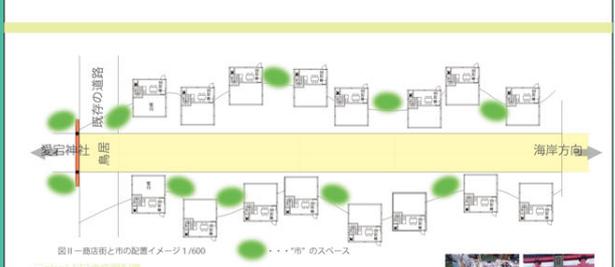


図1-商店街と市の配置イメージ1/600  
「市」のスペース  
「市」は1店舗あたり2x2mの面積を想定して商店街にそのスペースを確保する。愛宕神社鳥居の下で行われてきた市を商店街にも引き込むため、商店街の店舗配置をずらすと設置する。するととてばまざる余地が「市」のスペースを確保する。風呂の水道設備や休憩の可能なベンチスペースも確保する。

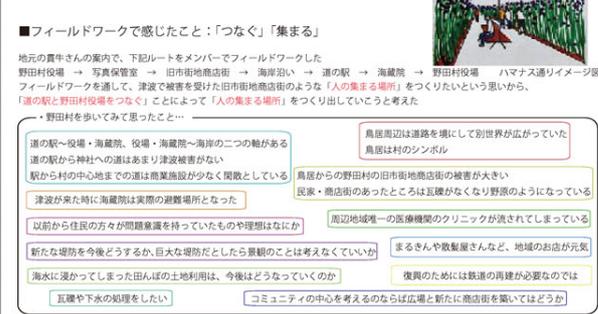
「市」の具体的なイメージとして以下の内容が考えられるいずれも復興後の商店街に現れる人々のアクティビティより活発になるよう意識した。

- 野田村の歴史を学ぶ**  
野田村の歴史を学ぶことのできる本や資料を整理して展示する。また、野田村の歴史を学ぶためのワークショップを開催する。
- 野田村の歴史を学ぶ**  
野田村の歴史を学ぶことのできる本や資料を整理して展示する。また、野田村の歴史を学ぶためのワークショップを開催する。
- 野田村の歴史を学ぶ**  
野田村の歴史を学ぶことのできる本や資料を整理して展示する。また、野田村の歴史を学ぶためのワークショップを開催する。

復興後の参道→商店街で行われる主要なイベントについても想定した。既存の野田村の祭り、イベントを盛り付けたい。野田村の「祭りの町」を活性化させるべく事を考えた。  
祭りの町を盛り付けたい。野田村の「祭りの町」を活性化させるべく事を考えた。  
祭りの町を盛り付けたい。野田村の「祭りの町」を活性化させるべく事を考えた。

## TSUNAGU-人、まち、時間をつなぐ-

地域住民と観光客、隣り合う久慈市と普代村、震災後から未来へ、道の駅と役場をつなぐことにより、全ての人、まち、時間を「つなぐ」



● 野田村を歩いてみたこと...  
鳥居周辺の道路を境にして別世界が広がっている  
鳥居は村のシンボル  
鳥居からの野田村の田舎の風景が大きい  
民家・商店街のあったところは鳥居のようになってる  
津波が来た時に海蔵院は実際の避難場所となった  
周辺地域唯一の医療機関のクリニックが潰れてしまっている  
以前から住民の方々が問題意識を持っていたものや理由はなかなか  
まるきりや壊滅したなど、地域のお店が元気  
海水に浸かってしまった田んぼの土地利用は、今後はどうなっていくのか  
復興のために鉄道は再建が必要なのは  
互換や下水の処理を聞く  
コミュニティの中心を考えるとならば商店街を築いてはどうか

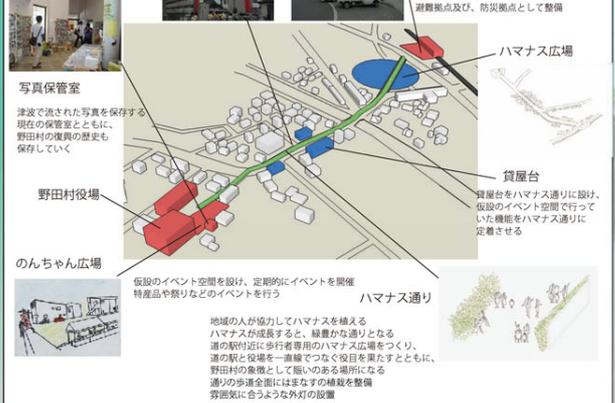
● 提案  
コンセプト「安全と交流を軸に」  
現状の野田村では、野田の顔とも言える交通拠点(陸中野田駅・道の駅)と市街地の核となる商店街(市街所「広場」)に繋がりがなく、一駅と市街地中心、そしてこの2地区を結ぶ空間を整備していくことで常時地元住民と観光客の交流が行われ、非常時は住民が地区へスムーズに避難することが出来る街に。  
①のんちゃん広場:「イベント空間」  
現在駐車場として使用しているのんちゃん広場に仮設のイベント空間をつくり、地域住民と観光客の集まる場にする。果物や水産物の市場や、フリーマーケット、のんびりとした特産物の体験イベントなどを行う  
②道の駅・役場を結ぶ道路:「ハマナス通り」  
野田村の中心であるハマナス通りと、道の駅から役場までの間に人が集まるような空間にしたい。野田村の象徴となるように、地域住民の顔となる

## ■今後3年間における段階的な復興案

市街地商店街は道の駅から役場までの道を境に、海岸側は建物ほとんど倒壊壊滅的な被害を受けた。私は、津波によって多くの資源を失った現在の状況において、元の商店街をつくり再生するには、時間がかかると考え、6ヶ月、1年、3年と時間をかけて徐々に復興していくような提案をすることを考えた。

	のんちゃん広場	道の駅	ハマナス通り
復興期(6ヶ月)	のんちゃん広場に仮設のイベント空間をつくる(果物・水産物の市場、フリーマーケット、のんびり、のんびり)	診療所・図書館・休憩所を付属させる	ハマナスを植える
定着期(1年)	イベントを行う地域の人が増えてくるため、イベントを行える貸屋台の設置を促す。ハマナス広場に設置し、定着させる	診療所・図書館を併用する貸屋台の場所となる	貸屋台を置く ハマナスを地域住民で育てる イベント空間を徐々に整備する
発着期(3年)	貸屋台として行っていた施設を建物をつくり商業施設として発展させる ハマナス通りをつくらせることにより 商業施設を利用する人が増え、役場周辺のハマナス通りに集まることができる	ハマナス通りとハマナス広場の出来たことにより、野田村の玄関となる。観光客を誘致するようになる 道の駅周辺のハマナス通りに集まることができる	歩行者専用のハマナス広場ができ、道の駅から役場まで一貫線に見渡せるようになる 道の駅から役場までの集まるハマナス通りが出来る

## ■3年後の様子



● WSの感想  
今回このような機会を与えてくださり、そしてご協力して下さった野田村の住民の方々、先生方、そして関係者の方々、感謝しております。  
短期間ではありましたが、非常に多くのことを考え、そして学ばせていただきました。野田村、そして東北の一日も早い復興を心より願っております。

# 岩手県 野田村

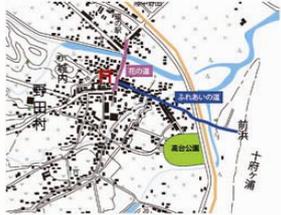
vol.4

～復興まちづくりシャレットワークショップ～

7月28日～7月29日

## 私たちが提案するコミュニティの村

3班 田中里奈(首都大) 水上小紀子(首都大)  
酒井勇人(工学院大) 猪股希美(八戸高専)  
村上早紀子(弘前大)



テーマ “人々の交流が生まれる村づくり”

3つの提案

- 鳥居を復興のシンボルとした2つの道
  - ・参道→ふれあいの道
  - ・鳥居に面する通り→花の道
- 災害時の避難場所としての高台公園

### ふれあいの道



- 聖母神社の鳥居は村の中でも目立つ存在。
- 3月11日の津波で壊れず、内陣への参道を軽減させたことから、復興のシンボルとなる。
- 「ふれあいの道」では、震災による死者への追悼や犠牲イベントでも活用する。
- 海へと繋がるこの道と海をもう一度向合うことで、死者に対する追悼と共に未来に対する畏敬の念を新たに抱く。
- 福戸温泉温泉の住宅で行なわれた祭り参考に、出店にお祭さんが集う足元の取りでは多く、道にテープを敷く、住民が利用できるように道幅を拡張し、住民主体の祭りを実現。

### 鳥居



### 花の道



- 「高専街で住民が花を飾ることを推奨し、花を育てる人・見る人が増えていく」となる。
- 現在も鳥居に面する道はガランとしており、花を飾る人が増えることで賑わいが出てくる。
- 花で色鮮やかに通りを飾ることで、明るい復興のイメージを演出したい。

### 高台公園



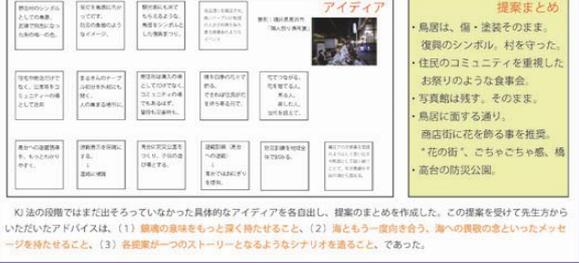
- 45分間と短縮から繋がるように高台を設け、災害時の避難場所として高台の上に公園を設置する。
- ここは、砂防でレジャーをしている人や道路を通行している人、電車で通っている人が出入りする場所とする。
- 高専の敷地は緑の公園を設け、2メートルを目安に、災害時に役目を果たすために、平常時においても子供達の遊び場や散歩の場など幅広い世代に愛され利用される場にする。
- 避難経路などにより、公園へ行く機会を日常的に入り、野田村の人々の繋がりを通じて防災意識を高めて行くような場所とする。

～3班作業の流れ～

## その1 プレゼンテーションおよびKJ法による整理

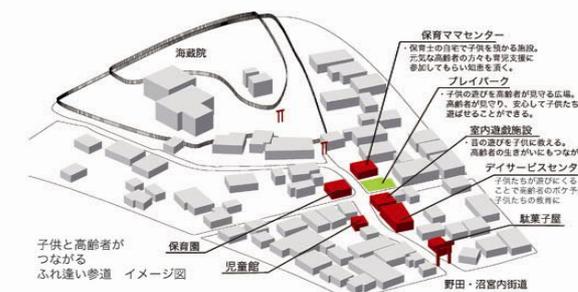


## その2 具体的なアイデア出し



## ふれ違い参道

4班 平野悦子(工学院大) 大島和之(首都大) 小山内由希(弘前大)  
仁藤秀俊(工学院大) 角谷智(首都大) 下村洋輔(八戸高専) 小倉保太(八戸高専)



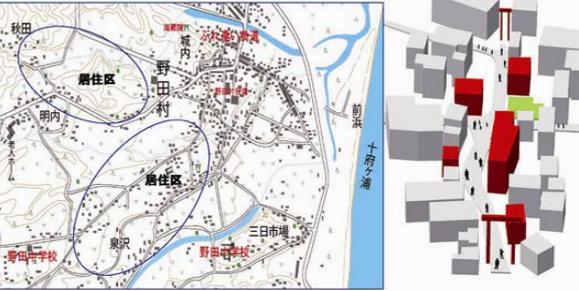
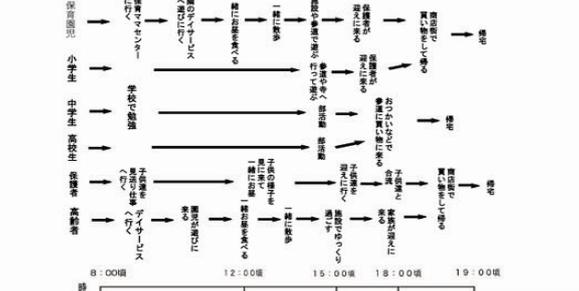
- コンセプト  
私たちは、メインコンセプトとして「人の戻ってくるまち野田村」を掲げました。
- 背景  
まずはじめに行ったフィールドワーク（街歩き）での、班員の気づいた点には、以下のようものがありました。
- 村の中心地に参道がある
- 商店街の方々をはじめ市民みな元気で温かい
- 保育園も被害を受けている
- 安全な場所にほころがある
- 鳥居を境に被害が少なく安全な場所と感じた
- 中心市街地が、壊滅的な被害を受けている
- 商店街などコミュニティの場が失われている
- 公的機関もかなり被害を受けている
- 中心市街地や商店街などが被害を受け、コミュニティの場が失われている状況を見て、どのようにコミュニティの場を再建し、「人の戻ってくるまち」にするかを議論しました。
- 近所のコミュニティが密な中で育った子供達はコミュニケーションが高い
- 高齢者は子供達とのふれあいを通じてポケ予防や生きがいにつながる
- 野田村の一帯いいところであるコミュニティをのばすために子供と高齢者をつなげる参道を軸に。
  - ・子育てしやすい街
  - ・子供が楽しめる街
  - ・高齢者が生きがいの持てる街
  - ・タテのつながりの強い街
  - ・みんながなんともなく集ってくる場所
  - ・コミュニティの場として参道を利用する

野田村の賑わいがある。コミュニティの力を活かし、村の中心地ともいえる参道を子供や高齢者をはじめとした村民同士をつなげる場として利用することの出来る、「ふれ違い参道」を提案します。

高齢者や子供達を中心に村民の方々のふれ違い参道の利用パターンを構想し、次ページに掲載しました。

## 住民の方々の利用パターン

下記のフローチャートでは、「ふれ違い参道」の世代別の利用パターンを考察したものです。保育施設、保護者、高齢者を中心に考察しましたが、小中高生も買い物などを通して「ふれ違い参道」に訪れ、各世代との交流を持たせるような仕組みを提案します。



□WSの感想  
二日間という短い期間でしたが、班全体の協力で一つの案にまとめることができました。このWSを通して、少しでも野田村の復興の一助になればと思います。また、我々の活動にご協力いただいた野田村の村民の方や各関係者の皆様へ感謝申し上げます。